

## 賛助会員加入の

### お願い

#### あかねニュース発送・存続の為に

拝啓

皆様にはいつも私たちの事業や活動に、ご理解・ご協力をいただきありがとうございます。また、いつも『あかねニュース』をお読みくださりありがとうございます。ございます。

さて、大変なことになりました。というのも、私たちが『あかねニュース』を皆様にお届けする手段として「心身障害者用低料第三種郵便物制度」を利用しています。この制度は「有償配布」が、

原則となつていますが、先般の広告会社の不適正利用事件があつてより、厳格な制度運用が求められるようになりました。

皆様から購読料を頂き発行部数の約八割以上の「入金証明」がないと、制度の運用が受けられなくなり。誠に困つた残念な話ですが、逆にその何倍も私たちを支えてくれる人たちがいることを信じて頑張つていきたいと思つています。

そこで、私どもの定款附則六に

『賛助会員・一口年間一〇〇〇円 あかねニュース年間購読料含む』とあります。

ニュースは隔月発行一部百円で年六回ほど発行なので購読料は六百円ほどになり、残りは支援カンパ金となりますが・・・

是非、賛助会員となつていただきご協力をお願いできませんでしょうか。

賛助会員には何ら強制・制約は一切ありません。ただ私どもの事業・活動に温かいご支援を賜るのみです。又、皆様の個人情報に関してもニュース発送にのみ使用させていただきますことを改めてお約束させていただきます。

つきましては、同封の『払込取扱票』にてお振込み、賛助会員加入をお願いいたします。

事情ならびに趣旨ご理解のうえ、何卒よろしくご願ひ申し上げます。

理事長 芳川 雅美

# 「席に座る」・・・はなし

電車やバスの中で、席を譲られたことはありますか？

若い人などがスッと席を立つて「どうぞ」と笑顔を向けられると、こちらも「ありがとう」と会釈を返しながら、とても良い気持ちになって座ります。

降りるときにその人がまだ近くで立っている、もう一度お礼を言ったり・・・言われた人は、さつき席を譲ったことなどもう忘れてしまっていて、一瞬怪訝な顔をしたりするのですが・・・。

ところが時々、譲られても素直に座らない人がいて・・・特に老人に多い。

「いや、大丈夫です。」

「そうおっしゃらないで、どうぞ。」

「結構です、どうぞあなた座って下さい。私は座らなくてもええねん。」

「でも、私のほうがどう見ても若いですが、ご遠慮なく・・・」

「いいといったらいいんや！ほっといてえな！」

せっかく良かれと思つて席を立つた人は、まるで余計なことでもしたかのようなバツの悪い表情になり、周囲の視線も感じて、また座りなおすのも・・・とばかりに、電車のある方へ行つてしまいます。

やはり、せっかくの好意は素直に受けた方がよさそうです。

そうかと思つて逆に、争つて席を取りに行く修羅場！？に出会うこともあります。ある日のラッシュ時の阪急電車の車内。ある紳士とある淑女、もちろん他人同士。豊中から同時に乗つてきました。折りしも、降車客がいて座席が一つ空いた。二人は期せずしてそこをめぐけて突進。淑女の方が少しだけ素早かった！一瞬速く席をゲット。憤懣やるかたない無念の紳士は、一呼吸の後、反撃に出た！

「ハツハツハ、どうぞ座りなさい座りなさい！そんなにしてまで座りたいんなら、どうぞどうぞ。ハツハツハ、恥も外聞もないとはこのことだ。あああさましい！ハツハツハ！」？負ければ官軍？とでも云うのでしょうか、自分も同じ行動に出たことなどそつちのけで、淑女を罵倒し始めたから、彼女も負けてはいません。

「何よっ！あなただつて同じ事をしたくせに！お座り下さい！お座りになりたかつたんでしよう、悪うございましたわね！」プイと席を立ちますが、それでも紳士は「ハツハツハ」を声高らかに繰り返すのみで、いまだ座るに座れません。

淑女は混雑した車内を縫つてあつちへ行つてしまい、電車は『遠慮の固まり』！？の空席を一つ残したまま、十三まで走り続けたのでした。

あげた拳を下ろすタイミングを失したというか・・・お互いに大人げない言動は慎まなければ・・・。

人のふり見て我がふりを・・・という言葉を思い出しました。

これもある日の阪急電車。ラッシュユアワ  
ーも過ぎて車内はすいていて、空席も目立  
ちました。最後部の車両のそのまた一番後  
ろの席に、初老の紳士が座っていました。  
そして私はその紳士のちょうど真向かい  
の席に。次の駅に着き、男の子が乗ってき  
ました。

様子から見て、どうやら「知的障害」者  
らしい。彼は紳士のまん前に立ち、なんと  
「ぼくの席！」と叫んだのです。

きつと毎朝、この電車に乗ってどこかへ通  
っていて、いつも同じところに座っている  
のでしょうか。

紳士はその子を見つめて、穏やかな口調  
で言いました。

「ねえ、ぼく。電車の座席は先着順にどこ  
に座ってもいいんだよ。今日はおじさんが  
先に乗っていたから、この席はおじさんの  
席だ。ほら、空いている席はいっぱいある  
から、あっちへ行ってお座り。」

不満そうに、紳士をにらみつけて動こう  
としない彼。見かねたように近くに座って  
いたおばさんが彼に助け舟をだします。

「代わっておあげになったら？その子の  
こだわりで、毎朝その席に座りたいんです  
よ。誰かが座っていると、その都度いつも  
変わってもらって・・・。」

どうやら、おばさんも毎朝この電車のこの  
あたりに乗る人のようです。

「いやネ、奥さん」紳士は穏やかな口調を  
変えずに、おばさんに向かうと、「私は、  
甘やかしてはこの子の為にならないと思  
うんです。世間の中で皆と一緒に生きてゆ  
くには、時には自分の思いどおりにならな  
いこともある、ということ、この子も今  
のうちから少しずつ知らないといけない。  
そうでないと、この子が大人になった時  
に、わがまま一杯の人間になってしまいま  
すよ。」

おばさんは紳士の物静かなながらも整然  
とした話に、返す言葉がなく、かといって  
このまま説得されるのも口惜しい、といっ  
た表情になると、あっちの方を向いたま  
ま、しかし、紳士に聞こえよがしに、ひと  
り言のように云いました。

「障害持つてる子に、そんな小むずかしい

こと云ったって、わかりやせんわ。」

「いや、それは違う！」

紳士は初めて、やや強い口調でおばさんを  
正視すると、続けました。

「親戚にやや重度の知的障害の子がいる  
が、その子も善悪の判断は十分にできま  
す。やって良い事、悪いこと、やるべきこ  
となど、ちゃんと教えれば十分に理解でき  
るし、その通りに実行もする。粘り強く教  
える必要はありませんよ。それが大変だ、一  
面倒だということ、教えることをせずに、  
単に云うことを聞く、やりたいことをやら  
せるだけでは、この子たちの本当の意味で  
の自立、つまり、社会の中で一緒に生きて  
いくのを支援していることにはならない  
と思うんです。そうは思われませんか。」  
すいている車内のこと、紳士の言葉は、  
向いに座っている私にも十分聞こえまし  
た。朝から良いものを見たぞ、今日は一日  
いい気分が過ぎた。紳士にエールを  
送りたい気持ちでした。彼はいつの間にか  
向うの空席に座り、おばさんはソッポをむ  
いたままでした。

芳川 雅美

あかねは、『川西市障害者共働作業所あかね』という正式名称だが、実際の仕事内容は、『作業』というイメージではない。「あかね食堂」「あかね商店」「なんでも屋あかね」「ケーキ工房あかね」・・・と、名称を変えたくなくなってしまふ。

メンバーたちは、行商班と弁当班（それに老人センター班）に分かれて仕事をしている。

## 笑顔の伝染

弁当班の朝は忙しい。「おはようございます！」と挨拶を交わすとすぐに、それぞれの持ち場に就く。調理を担当する人、電話で注文を取る人、出来上がったおかずを盛り分ける人、洗い物をする人、それを片付ける人、それぞれが正確に届くように配達札を作る人、みんな自分出来ることを一所懸命にやっている。

今では、流れるように進んでいく朝のこの時間だが、ここまで来るのに、失敗した

こともたくさんあったという。

一日一日、助け合い、叱咤激励を受けながら「これは自分の仕事」と自身を持ち、お互いを頼りに出来る存在となっている。お弁当が出来上がると、配達し、午後弁当箱を回収し、それをきれいに洗う。そして、次の日の準備・・・と、毎日同じことの繰り返しだが、同じ日は一日とない。本当に！本当に！毎日、いろいろなことが起きる。

この職場が他の職場と違うところがあるとすれば、喜びや楽しさ、悲しみや混乱が伝染しやすいところかもしれない。

一人が悲しかったり辛かったりすると、それがすぐに広がってしまう。

みんな、まっすぐで、自分に嘘をつかないガマンもそれほどできない。

普通だったらみて見ぬふりを



してしまいそうなことも、敏感に受け取ってしまふ。だから、辛くなる日もあるし、辛さをうまく表現出来ないこともある。それでも、みんな、お互いを大切に思っているのがよくわかる。

一人でもお休みの人がいると気になるし、淋しいし、みんなが揃うとうれしい。熱があっても、「家にいてもつまらない」といって、出勤してくる人や、「私ね絶対に休みたくないねん。だって、楽しいもん。」という人。時々ズル休みをしたくなる人。

それでも、がんばって来てみたら、「来て、よかったあ〜」と笑っている。

喧嘩をしたり、不平不満をお互いにつけあいながらも、お互いがとても好き。

家族よりもっと、家族みたいだと感じてしまふ。ここは、職場であり、みんなにとって大切な居場所。私にとっても。

そんなあかねで、今日は、どんな一日になるのかな！きつと何かが起きそう。でも少しでもたくさん、笑顔が伝染する目になりますように。

岡田 小月

# 古谷静枝さんとの想い出

十四年前、神戸の震災で、家の下敷きになり、救出されその後、病院の廊下にベッドを置き、身を寄せていた老夫夫妻。

ご主人は以前から脳梗塞で倒れて以来、リハビリを受けておられたという。

そんなご夫妻が、「親戚を頼って川西市へ行かれますので、お世話をお願いします。」という知らせを、神戸の仲間から受けて、当時、川西もまだ混乱はしていたものの、神戸ほどではないし、何とか私たちに出来ることをしよう！と、お引き受けしたのが、初めての出会いでした。

川西保健センターの先生に、快くご主人のリハビリを引き受けていただいて、毎日リフトカーで送迎し、午後は、あかねの作業所へご夫妻で通っておられました。

いつも、神戸の家で友達や近所の人たちと楽しく過ごした時のこと、震災の時、受けた恐怖・・・などいっぱい話をしてくだ

さいました。「神戸へ帰りたい」と、そのうち、神戸の市長さんから帰っておいで、とお迎えの手紙が来ることを一日千秋の思いで待つておられました。

そんなある日、「昨日ね、神戸市から手紙が来たのよ。やったあと封を開けてみたらね、神戸空港建設賛成か反対か！だったんよ。」



肩を落として、語られた古谷さんの声が、いまだに耳に残っています。

初代あかね号(愛は地球を救う)に乗って、川西中を走り回り、あかねのメンバーたちにも、たくさんのお話をしてくださつ

たのですが、その後、川西市も介護保険制度の導入で、老健施設の方へ移っていかれました。

あれほど神戸へ帰りたかった古谷さん。その思いを叶えることなく、この世を旅立って逝かれたことが、残念でなりません。

そして、ご夫妻の人生における多くの経験、私たちに教えていただきました。

人はみな、生きていたらいろんなつらいこと、悲しいこと、いっぱいあるけど、年老いて見知らぬ人の中で暮らす不安・・・これはキツイ！。

顔見知りの人、友達、近所の人々、住みなれた人の中で生きることの幸せを、もっと、もっと大切にしなければ・・・

こうやって人はみな裸でこの世に生れてきて、裸で死んでいけばいいんや！。

ありがとう！古谷さん。さようなら・・・神戸の空をお二人で、風になって吹きわたってください。時々、川西の方へもね！ご冥福をお祈りします。

富田 啓子

## 地域パートナー紹介

### その⑥

ハッコウ山海フーズ

今回ご紹介しますパートナーは、少し川西から離れまして、新大阪に健康食品店を構えるポランテア？の通称、大作さん。日本酒と詩吟そして哲学を愛する心温かな大作さん。あかねでのイベント、個人的な飲み会で後輩など新しい方々を紹介・繋いでくださったり、あかねまつりには、家族総出で出店など、つくづくあかねに、行動力とやさしさで関わってくれています。そんな大作さんから・・・

『こんにちは大作です。笑顔と健康をモットーに、身体に優しい食品等を販売しております。一度、お店にもお立ち寄り下さい。また、あかねまつりにも出店しておりますので、是非ご利用ください。』

ハッコウ山海フーズ・大阪市東淀川区東中島一―二十一―十二ユニゾンビル 414

## お出会い情報 ～あかね行事へのお誘い～

- ①たけのこ&山菜ツアー 5月2日(土) 08時30分 JR川西池田駅ロータリー集合  
参加費3500円 行き先 天理市郊外の山里  
自家用車乗り合わせ

(お詫び) 前号で実施日を5月10日としていましたが、現地の筍の状況により変更しました。

- ②第二回あかね元気寄席 5月17日(日) 14:00開演 川西市商工会館2Fホール  
木戸銭 1500円 格安です是非、お越してください!

\*\*\*出演者・演目決まりました。上方落語中堅の星 桂 文華「青菜」など

### 寄付金・カンパ・助成金のご報告とお礼

畦野教会様 中嶋芳枝様  
岡 様 川本 様 山田 様  
山口 様 松山 様  
西田 様 能勢口教会 様  
2009年1月～3月の期間に頂きました。  
ありがとうございました!

### 編集後記

みなさん、既にお気づきと思いますが、今回のニュース六十号の発送に障害低料第三种郵便制度は利用していません。利用できませんでした。巻頭のお願いを繰り返しますが、賛助会員へのご加入の件、何卒よろしくお願いいたします。

同封の「払込取扱票」は、郵便局にて、振込み手数料は不要、また窓口だけでなく機械でも使えますので、よろしくお願います。

内海